

(様式第1号)

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:平成29年度)

施設 の 名 称	宮城県さくらハイツ
指 定 管 理 者 の 名 称	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会
施 設 所 管 部 課 (室)	保健福祉部子ども・家庭支援課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成15年4月 ~ 平成18年3月	管理委託	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成18年4月 ~ 平成23年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成23年4月 ~ 平成28年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成28年4月 ~ 平成33年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会
	所在地	仙台市太白区茂庭台二丁目15-20
指 定 期 間	平成28年4月1日 ~ 平成33年3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県さくらハイツ	
所 在 地	宮城県	
設 置 年 月	昭和23年12月	
根 拠 条 例 等	母子生活支援施設条例 母子生活支援施設条例施行規則	
設 置 目 的	配偶者のない女子又はこれに準ずる事情にある女子及びその者の監護すべき児童を入所させて保護するとともに、これらの者を支援することによりその自立を促進し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うもの。	
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	7,006.13㎡(その他併用施設の敷地を含む)
	構 造	鉄筋コンクリート造4階建て
内 容	事務室, 相談室, 多目的室, 保育室, 母子生活居室等	
開 館 (所) 日	365日	
開 館 (所) 時 間	24時間	
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	・母子生活支援施設条例第3条各号に掲げる業務 ・支援施設の維持管理に関する業務 ・その他, 知事が別に定める業務	
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利 用 料 金 の 名 称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前 年 度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
開館(所)日数	365 日	365 日	365 日	100.0%	100.0%
延べ利用者数	240 世帯	213 世帯	222 世帯	92.5%	104.2%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前 年 度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
合 計	0 人	0 人	0 人	#DIV/0!	#DIV/0!

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (平成29年度) (A)	前 年 度 (平成28年度) (B)	評価対象年度 (平成29年度) (C)		
県指定管理料	60,822	60,220	60,822	100.0%	101.0%
利用料金収入				#DIV/0!	#DIV/0!
その他				#DIV/0!	#DIV/0!
収入計 (a)	60,822	60,220	60,822	100.0%	101.0%

(2) 支出

人件費	46,702	44,774	46,503	99.6%	103.9%
施設管理費	8,222	7,952	7,315	89.0%	92.0%
事業運営費	5,898	6,118	6,450	109.4%	105.4%
その他	0	1,376	554	#DIV/0!	40.3%
支出計 (b)	60,822	60,220	60,822	100.0%	101.0%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!
前期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!
次期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

6. 評価対象年度(平成29年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
	評価	評価	評価	評価	評価	評価
①管理運営体制	<p>・職員体制については、常勤12名、非常勤2名、計14名。児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を満たし、有資格者・社会福祉経験者を配置。</p> <p>・職員研修については、県内外・法人内・施設内研修へ積極的に参加。年間31回、延べ41人参加。(母子生活支援施設関係・DV関係・児童虐待防止学会・心理療法研修・保育技能研修など高度な専門研修に参加し資質能力の向上に努めた)</p>	<p>・最低基準の職員配置基準を満たし且つ加算職員2名を配置し支援の充実を図った。採用に当たっては、社会福祉士など有資格者を採用し専門性の向上を図った。</p> <p>・研修については、支援課題が複雑かつ多岐にわたり専門的知識の必要性を職員が痛感。学術研修、特別技能研修などに積極的に参加し職員会議で共有し支援の充実と資質向上に努めた。</p> <p>・職員個々の自主研修を奨励し自己努力を推進し専門性の向上に繋げた。</p>	S	S	<p>・指定管理料の範囲内において、入所者への適切な支援に必要な人員体制を確保し、処遇にあたっている。</p> <p>・職員研修については、複雑多岐な支援課題に対応出来るよう、多岐の研修会へ積極的に参加し職員の資質向上に努めている。また、自主研修の奨励など、日常的に施設長から職員への指導が適切に行われている。</p>	S
人員体制	正規 7人	非正規 7人				
②施設・設備の維持管理業務の実施	<p>・日常的に職員、利用者共に館内の清掃・点検など維持管理を行った。</p> <p>・退所時における居室リフォーム、建物・備品関係の修繕、調整など18件実施。</p> <p>・施設内設備の点検については、法令で定められた期日通り定期的実施。</p> <p>・遊具の点検について担当を決め点検を行い定期的に業者に依頼。</p> <p>・今年度も排水管の詰りによる水漏れ等の防止のため排水管の全館一斉高圧洗浄を実施。</p>	<p>・職員、利用者共に施設内の環境を意識し、過ごし易い環境作りや園芸部を作り利用者と一緒に草花を植え心地いい環境整備に努めた。</p> <p>・建物の法定点検、安全点検はもとより、居室や共有スペースなど自主的なメンテナンスを今年度も実施している。</p> <p>・経年劣化と思われる修繕が多く発生し、生活に直結した修理も多く、その都度迅速に対応した。今後予想されるものについては、予防的対応をとり利用者の生活に影響がないように努力した。</p>	S	S	<p>・職員、利用者共に日常的な清掃、点検を行い施設内のより良い環境づくりに努めている。</p> <p>・施設設備の修繕についても、日頃から安全点検に努めるとともに、修繕が必要となった場合は迅速に対応している。</p> <p>・法定点検だけでなく、自主的にメンテナンスを行うなど、適切に施設の維持管理に努めている。</p>	S
③運営業務(ソフト事業等)の実施	<p>・施設の運営・事業計画に従い実施している。</p> <p>・母親への支援(支援9項目:5,342件)前年比11%増</p> <p>・児童への支援(支援7項目:1,819件)前年比同率</p> <p>・保育支援(保育室利用延べ:1,344人)特記前年比 188%</p> <p>・心理支援(支援5項目:457件)</p> <p>・ほっこり室(78件)</p> <p>・個別対応支援(母・児童・他:737件)</p> <p>・公的機関連携(172件)</p> <p>・退所者支援(190件、母:172、子:69)など</p>	<p>・暴力被害による影響と思われる不安定な母子関係や言動への介入を最優先し安心して生活が送れるよう支援を行い、個別対応や家族ミーティングなど職員全体で介入方法を検討した。</p> <p>・昨年導入した「ほっこり室」は安心して過ごせる空間と時間として利用者のニーズが高く自己回復に効果を上げている。</p> <p>・対応が難しく大学や専門機関と連携し利用者と一緒に考え養育支援に努めた。</p> <p>・退所した中高生を対象に月1回、施設内で会食会を実施。地域での生活を見守りながら退所後の切れ目の無い支援に努めた。</p>	S	S	<p>・DV被害世帯に対し、自立支援のみならず母子の精神的ケアなどきめ細やかな対応を行っている。</p> <p>・様々な障害や問題を抱えた利用者等、困難ケースに対しても関係機関との連携により適切な支援の実施に努めた。</p> <p>・退所した同伴児童のアフター支援に積極的に取り組み、継続した自立支援に努めている。</p>	S
④自主事業の実施	<p>・施設設置環境から、施設単独の地域支援事業の実施は困難であるが、毎月地域の資源ごみ回収やごみ拾いを行った。</p> <p>・町内会総会の集会場として施設内スペースを開放するなどして、地域交流を意識した活動を行った。</p> <p>・アフターケアとしてメールを取り入れ「繋がる」関係性を大事に支援をおこなった。上記③に記載。</p> <p>・地域貢献として子育て支援のイベントにスタッフとして参加した。</p>	<p>・施設の機能上、本来の地域母子・ひとり親への支援事業実施が建物環境上、実施が不可能である。</p> <p>・地域における相談、支援等に協力し実施している。</p> <p>・退所者支援事業としての実施ではないが、施設業務として要保護家庭児童対象に退所者支援を関係機関と連携し実施している。</p>	A	A	<p>・秘匿性が求められる施設の性質上、地域と密着した支援が困難である中、可能な範囲で地域との交流・支援に努めている。</p> <p>・退所者に対し、ケースに応じて柔軟かつきめ細やかなアフターケアを行っている。</p>	A
⑤利用者サービスの向上	<p>・365日24時間体制による生活支援を実施した。</p> <p>・毎月初日の在籍222世帯、同伴児466人、合計668人</p> <p>・入所世帯:7世帯18人(前年比5世帯18人減)</p> <p>・退所世帯:6世帯13人(前年比4世帯17人減)</p> <p>・①、③にも記載あり。</p> <p>・職員会議、合同処遇会議、ケース検討会、内部研修、県内外研修など積極的に実施。</p> <p>・29年度は福祉サービス第三者評価を受審し報告済。</p>	<p>・24時間体制で相談支援業務の実施により、利用者の安心と安全を保障し、対応の迅速化と支援の充実を図っている。</p> <p>・年2回の家庭面接や自立支援計画の見直しなど、利用者との十分な話し合い、合意のもと個々の家庭事情に合わせた支援を実践している。</p> <p>・支援の技能向上を図るため、施設内外の研修など計画に基づき具体的に実施している。</p> <p>・第三者評価制度に基づき今年度は受審。支援サービスの向上に努めた。</p>	S	S	<p>・入所者個々の実情に応じたきめ細やかな支援が行われている。</p> <p>・家族面接や自立支援計画の見直しなど、入所者と常に話し合いを持ち、入所者の意思を尊重しながら自立に向けた支援を行っている。</p> <p>・研修の積極的な受講、第三者評価の受審等により、サービスの質の向上に努めている。</p>	S
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	<p>・日常の苦情や要望等にその都度対応している。</p> <p>・利用者アンケートを年2回実施。</p> <p>母:質問12項目 自由記載</p> <p>児:質問4項目 自由項目</p> <p>アンケート結果(2回集計)</p> <p>母:良い275 どちらともいえない16 悪い1</p> <p>児:26人 良い53 どちらともいえない16 悪い2</p> <p>全職員で結果を共有し検討し支援につなげるよう努めた。</p>	<p>・日常の声掛けや日頃の関わりを通して、よく話を聞く事を心がけ、要望や申し出に早期対応に努めている。</p> <p>・アンケートの自由回答など、言葉ではなかなか言えない方も文章化すると伝えられる利用者もあり、出来るだけ多くの意見や要望を集約できる配慮と工夫として意見箱を設置し苦情、要望等の反映に努めた。</p> <p>・今年度の苦情解決制度の利用はなかった。</p>	S	S	<p>・入所者からの苦情や要望に対し、常に誠実な姿勢で迅速な対応に努めている。</p> <p>・アンケートの自由回答や意見箱の設置など、利用者の個別の要望を引き出す工夫がなされており、利用者への配慮に努めている。</p>	S
⑦安全対策	<p>・防災点検として毎朝各部屋を回り、電気、ガス、ストーブ、こたつ等の確認を行っている。</p> <p>・危機対応管理マニュアル、感染症対応マニュアルを整備している。</p> <p>・関係機関合同での防災会議を実施。</p> <p>・防災訓練:年12回実施(総合訓練2、避難12、消火1、放水1通報2、防犯2)、警察の協力により不審者対応訓練を行った。</p> <p>・警察と連携あり。</p> <p>・地震対策用品貸出し、消火設備の安全点検、非常用備蓄物品を1週間分整備・業者による遊具の安全点検を実施。</p>	<p>・居室の安全確認や利用者への防災に対する啓発により火災、交通事故等は発生していない。</p> <p>・危機管理等の情報をもとに職員全体で情報を共有し不審者情報については強い危機意識を持ち不審者訓練(防犯訓練)を2回実施し非常時の対応について確認し体制を整えた。</p> <p>・児童の安全対応は、保護者、保育所、学校とも連携し、入所時の安全確保、新入生への登下校時の同行支援や安全指導など安全を守る支援に努めた。</p>	S	S	<p>・危機対応マニュアルの整備や防災訓練の実施等、安全対策が適切に実施されている。</p> <p>・職員全員が危機管理に対する意識を高く持ち、不審者対応訓練を行うなど、利用者の安全確保に努めている。</p>	S
⑧県民の平等利用	<p>・県内全域の福祉事務所から利用受け入れを行い平等性を確保しながら、緊急性の高い利用者を、迅速かつ積極的に受け入れた。</p> <p>・今年度は、県外からの入所世帯が多くあり広域利用について積極的に受け入れた。</p> <p>・国籍や障害等に囚われない入所受け入れを継続して実施。アウトリーチとしての情報を提供し施設を紹介。</p>	<p>・今年度も県内福祉事務所からの利用問い合わせが多くあり、入所に結びつかなくとも、福祉事務所からの相談を受け付け、関係機関として協力を行った。</p> <p>・緊急性が高く入所を必要とする世帯が多い現状もあり入所者の自立支援に力を入れ地域自立に繋がる努力を行っている。</p> <p>・国籍や障害等に関わらず入所を必要としている方に今年度も受け入れを行った。</p>	S	S	<p>・円滑に入所者の受入を行うよう努めており、入所に至らなくとも福祉事務所からの相談を受けるなど支援の協力を工夫している。</p> <p>・緊急性の高い世帯の受入体制の確保に積極的に取り組むとともに、国籍や障害の有無に関わらず、支援を必要とする世帯に対し適切な対応を実施している。</p>	S

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護管理規程、施設の倫理綱領にも定め、保護に努めている。 関係機関などから情報漏洩が起こらないよう、十分な状況説明による協力を要請している。 利用者に対しても、自分や他者の安全を守る意味で個人情報の重要性を入所時に説明をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の基本的な取り扱いはもとより、特に安全を必要とする利用者に対しては、徹底した管理に基づく情報の漏えい防止に努め、関係各所にも十分説明を行い個人情報の取り扱いは慎重に行った。 利用者同士で個人の事情が話されることがあり、それらの情報についても安心して生活を送る為、利用者への理解と協力を求めた。 職員会議で個人情報取扱いの規程を基に記憶媒体による情報の持ち出しや他機関への情報の取り扱いを厳しく指導している。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護管理規程等が職員に十分に周知され、職員の個人情報保護に関する意識が非常に高い。 外部に対する情報漏えい防止対策が徹底されている。 利用者に対する個人情報取扱いの説明など、情報管理に細心の注意を払っている。 	S
⑩利用実績	<ul style="list-style-type: none"> 項目⑤に記載 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も、緊急性の高い世帯が多くあり、福祉事務所からの入所依頼に対し受入を拒否することなく公平で平等な受入を行った。 入所実績は昨年に入退所世帯が前年比減となっている。入所課題が複雑かつ重症化し利用者の自立に向けた支援も多岐に渡っていることが要因している。若年の入所が多くあり母親の育ちなど支援の難しさがあり今後さらなる入所が見込まれ支援について今後の課題としたい。 	S	<ul style="list-style-type: none"> DV被害世帯等、緊急的に保護する必要がある世帯の入所依頼が多くあったが、適切に受入を行った。 退所実績は入所実績とほぼ同数となり、施設における自立支援の取組の成果とみられる。 入所希望者が抱える問題が複雑化し、支援の困難性が増しているが、引き続き対応力の向上に努め支援の充実に取り組みたい。 	A
⑪収支実績	<ul style="list-style-type: none"> 上記⑤に記載 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者支援の質的向上を図りながら、管理経費の節約節減に努めることができた。 人件費を抑制した分、施設管理費、事業費の必要経費に予算を振り分け、適正な運営と支援の充実に努めた。費用対効果からしても今年度事業は、当初の計画通り達成されたものと評価している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 利用者への支援体制を確保しながら、管理経費等の節減に努めている。 	A
⑫その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> 地域要対協の委員として地域の要保護家庭や要保護児童への支援に協力。 大学、専門学校などからの要請があり、母子生活支援施設について講義し啓蒙活動に努めた。 県の環境保全率先実行計画に基づいた環境配慮実践事業所の認定を受け、省エネ、ごみ減量化、リサイクル等への取り組みを今年度も継続実施。 地域のひとり親家庭支援として関連機関と協働して母子家庭支援プログラムに参画した。 アウトリーチとして自立のための選択肢として母子生活支援施設について情報を提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域支援も含め、積極的に地域や関係各所に参画し協力を行った。 今年度も県が推奨している環境配慮実践事業所として認定を受け、環境配慮行動の取り組みを施設全体で実践した。 関連機関と共に母子家庭支援プログラムに職員を参画させ地域の母子家庭の方々と交流を持ち種々の相談を受けられた事は大きな実績を残したと評価している。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 県の環境配慮実践事業所の認定を受けるなど、積極的な環境配慮の取組みが評価できる。 母子家庭支援プログラムに参画するなど、地域交流・支援の充実という観点からも、ひとり親家庭に対する支援への努力が認められる。 	S
総合評価		<ul style="list-style-type: none"> 親子で障害を抱える家族や若年母子、暴力的被害による影響と思われる子どもとの不安定な関係など日常的介入に個別対応が必要であり、益々高い専門性と高度な技能が要求されている。専門機関と連携し社会資源を活用しながら母子の将来を見据えた質の高い支援を実践し、事業実績として、メンタルケアを目的とした心理室等事業計画以上の実績を残している。また、次年度の施設定員において暫定による定員減の運営ではなく、最大定員での運営を可能とし、安定的な施設運営が確保できている。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 障害を抱えた母子や多家族世帯、その他様々な状況の世帯が入所している中、個々の実情に応じたきめ細やかな支援を最大限行う努力をしており、利用者へのメンタルケアの充実など、常にサービスの質の向上を考えた取組みを行っている。 施設退所後も児童が地域生活に円滑に移行できるよう、関係機関と連携したアフターケアが実施されており、入所してから自立するまでの一貫した支援が評価できる。 	S

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から母子生活支援施設も処遇改善費が認められたが、指定管理での要求は認められなかった。今後は指定管理の中で処遇改善費を要望したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 人件費等については、施設の適切な運営が確保されるよう検討を行っていく。